

## JSPSボン研究連絡センター 2012年度第3四半期活動報告 (2012年10月～12月)

### < 目次 >

1 2012年10～12月の主な活動	…p.1
(1) 日本の大学及び渡日プログラムの紹介イベント“Forschung und Studium in Japan”を開催	
(2) JSPS同窓会主催「会員による会員の招待」に出席	
(3) JSPS同窓会主催「ジュニアイベント」に出席	
(4) ベルリン日独センター、ドイツ大学長会議、ケルン大学主催 日独シンポジウム「大学の国際化-戦略、運営構造およびプロセス」に出席	
2 2013年1月以降の予定	…p.3
3 対応機関幹部の交代	…p.3
4 センター長雑感	…p.3

### 1 2012年10～12月の主な活動

#### (1) 日本の大学及び渡日プログラムの紹介イベント“Forschung und Studium in Japan”を開催

当センター主催の恒例行事として、10月16日、ミュンヘン工科大学の協力を得て、日本の大学及び渡日プログラム紹介イベント“Forschung und Studium in Japan”(日本での研究と学修)をミュンヘン工科大学近くの会議場オスカー・フォン・ミラー・フォーラムで開催した。

ミュンヘン工科大学国際部長の歓迎挨拶に始まり、在ドイツ日本国大使館による日本の留学生政策の説明、JSPSボンセンターによるフェローシップを中心としたJSPS事業説明、早稲田大学ヨーロッパセンターによるグローバル30及び早稲田大学のプログラム紹介、筑波大学ヨーロッパ事務所による概要説明、国際交流基金ケルン日本文化会館による概要説明、JSPS元フェローによる体験発表(2名)、JSPSドイツ同窓会による説明が行われた。

当日はミュンヘン工科大学の学生、教職員を中心に約30名が出席し、多数の質問が出されるなど熱心に参加していた。全体説明の合間に早稲田大学、筑波大学および当センターはブースを設置し、来訪者への説明、資料の配布、質問への回答を行った。名古屋大学ヨーロッパセンターと大阪大学グローニンゲン教育研究センターならびに他のG30大学は会場にパンフレット等の資料を用意した。



日本大使館の説明



ブースの様子

## (2) JSPS同窓会主催「会員による会員の招待」に出席

10月16日(金)午後から17日(土)午前まで、JSPSドイツ同窓会が主催する“Mitglieder laden Mitglieder ein“(会員による会員の招待)が開催され、当センターから小平センター長、大川副センター長、アルバース職員、吉永国際協力員が参加した。参加者は同窓会員を中心に約80名であった。本イベントは例年、“Forschung und Studium in Japan“と同時に開催しているもので、同窓会員間等のネットワーク強化と新会員の入会促進を目的として、ある同窓会員がホスト役となり、参加者をホスト役の所属機関等へ招待するという形式で開催されている。開催にあたっては、ミュンヘン工科大学と在ミュンヘン総領事館に多大なご協力を賜った。

16日午後はオスカー・フォン・ミラー・フォーラムで「社会と技術のイノベーション」と題する講演会を開催、17日午前はミュンヘン工科大学の Prof. Thomas Bock(ボック教授)の研究室(建築学)を訪問し、建築におけるロボットの活用と日本の伝統的な建築工法(宮大工)について学んだ。



会員による会員の招待 講演会



会員による会員の招待 ボック教授研究室訪問

## (3) JSPS同窓会主催「ジュニアイベント」に出席

17日午後は同窓会主催により、建築学科ゼミ室に場所を移してジュニアイベントを開催した。本イベントはJSPSのサマープログラム、海外特別研究員等を経験したドイツの若手研究者を招待して開催するもので、若手研究者の同窓会加入の促進も目的としている。参加者は合計18名、このうち招

待された若手研究者は8名であった。小平センター長、ミュンヘン工科大学ボック教授が講演を行い、同窓会員及び2名の若手研究者が経験談を語った。リラックスした雰囲気で見聞交換を行い、その後の簡単なレセプションの間、JSPS元フェロー達は再会を楽しんだ。

#### (4) ケルン大学主催日独シンポジウム「大学の国際化-戦略、運営構造およびプロセス」に出席

日独シンポジウム「大学の国際化-戦略、運営構造およびプロセス」が10月17、18日、ベルリンで開催された。ドイツ大学長会議(HRK)、ベルリン日独センター(JDZB)、ケルン大学の3機関が主催し、日独の大学等の国際担当者約100名が参加した。

日本側からは東京大学、立命館大学、筑波大学、名古屋大学、慶応義塾大学、明治大学、九州大学、京都大学、上智大学、大阪大学(以上発表順)から報告・発表等が行われ、ドイツ側からはハンブルク大学、ケルン大学、デュイスブルク・エッセン大学、ベルリン経済法科大学、ゲオルク・アウグスト大学、ハインリヒ・ハイネ大学、ブレーメン大学、ビーレフェルト大学、ベルリン自由大学、マルティン・ルター大学(以上発表順)等から報告・発表等が行われた。その他の日独の大学・関係機関等も参加し、当センターからは小平センター長と大川副センター長が出席し、議論に参加した。

International Officeの役割や日独の大学との違いなども含め、大学の国際化について活発な意見交換が行われた。

### 3 2013年1月以降の予定

- 1月29日～31日 日独コロキウム「細胞生物学」(於カールスルーエ)
- 4月26日～27日 第17回日独学術シンポジウム(於ケルン)
- 5月8日 JSPS サマープログラムプレオリテーション開催(於ボン)

### 4 対応機関幹部の交代

2012年12月31日をもって、任期満了により、6年間にわたってドイツ研究振興協会(DFG)の会長を務めたマティアス・クライナー教授が退任しました。退任後はドルトムント工科大学に復職します。2013年1月1日付けで後任の会長として、2012年7月のDFG年次総会で選出されたミュンヘンの中世ドイツ研究者、ペーター・シュトロシュナイダー教授が就任しました。

<関連 URL>

[http://www.dfg.de/en/service/press/press\\_releases/2012/press\\_release\\_no\\_65/index.html](http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2012/press_release_no_65/index.html)

### 5 センター長雑感

第3四半期には毎年苦勞する課題がある。ドイツの会計年度は暦年切り替えだが、日本の会計年度は4月切り替え。それに伴って日本側の次年度予算の決定がドイツ一般よりも3-4カ月は遅れる。奨学



生でも、ドイツ側の当該年度最終審査が10月にあり、即推薦合格通知が出されるのに、日本側の正式採択通知は翌年1月末か2月初め。年末に政権交代があったので今年は2月後半になる可能性さえあるという。

博士号取得前後の若手研究員の場合、有能な人ほど他からも声が掛かり、早く決まった国に行ってしまう。「日本大好き組」も良いが、ボン・センターとしては「学術的に優れたドイツ人研究者」に日本に来て欲しい。ドイツの年度末、つまりクリスマス頃に「4月初め渡航希望なのに、まだですか」の問い合わせが来ると、気が気ではない。「予算が未定なので、何も言えません」と答え、「だから日本は大変だ」と短絡的になって貰いたくはない。

2月、6月のドイツ側審査の推薦合格者には、この難題がない。本部でも努力して速やかに処理してくれている。基金制度を援用して、このような学術外交の課題に対応する道は無いものだろうか。

ボン・センターの悩みは毎年だが、個々の若手研究者にとっては、一生に数少ない選択試練の時期である。自分の若い頃を思い出して心を痛めるのは、私だけではあるまい。窓の外では粉雪が舞っている。(2013年1月15日)

ぼんぼん時計第38号  
日本学術振興会ボン研究連絡センター  
JSPS Bonn Office  
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)  
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)  
Phone +49 (0) 228-375050 Fax +49 (0) 228-957777  
www.jsp-bonn.de